

26 日山協競技発第 1 号

平成 26 年 6 月 23 日

都道府県岳連（協会）会長 様
理 事 長 様
競技委員長 様

公益社団法人 日本山岳協会
常務理事・競技部長 森下健七郎

平成 26 年度国体競技規則等の改正について（通知）

平素より、本協会競技部活動にご協力賜わり感謝申し上げます。

さてこのたび、表記規則改正を下記のとおり行いましたので通知いたします。

なお、改正については既に 4 月 6 日に開催いたしました平成 26 年度競技部委員総会にて、ご説明をしているところですが、さらに一部については改正を図っているため、競技関係者へのご周知等についてお願い申し上げます。

記

- 1、別紙「新旧対照表」のとおり
- 2、その他

このたびのリード競技規則第 3 章第 5 条（競技の方法）（4）項をはじめ、ブロック大会で別段の定めがある場合は、従来同様にブロック大会競技規則に準ずることとします。

【事例】

リード競技において、同一チームの選手 2 名が同時に競技できない場合、

- （1）連続して同一チーム選手が競技を行った場合は、「監督の指定された場所からの指示は可能」である。
- （2）同一チーム選手が、他チーム選手と交互に競技した場合は「監督は第 5 条（3）他の選手との接触、助言を受けてはならない」に抵触するため、「監督の指示はできない」

【担当：技術（審判）運営委員会、競技運営委員会】

【新旧対照表】

左＝旧 右＝新 削除のみの場合及び、削除をともない削除個所を示す必要があると思われる個所は「旧」に取り消し線

変更理由：

- 1) IFSC ルール変更にもなうもの
- 2) 日山協としての変更
- 3) 誤記の訂正

国民体育大会山岳競技開催基準要項細則

表4 山岳競技役員構成表

本部役員

総合成績計算委員(兼任) 備考欄³⁾

競技副委員長(中央)又は中央総務委員, 副審判長(中央), 競技部長	中央総務委員, 競技部長, 競技副委員長(中央)又は副審判長(中央)
---------------------------------------	---

行動役員²⁾

ルート別	種目別
------	-----

国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則

第7章 審査の指針

第29条 (クライミング・ウォール)¹⁾

1 (1) ボルト・オン・ホールドの設置用に開けた穴を手で使用してはならない。	1 (1) ボルト・オン・ホールドの設置用に開けた穴を手で使用してはならない。 これは、はりぼてにあるボルト・オン・ホールドの設置用に開けた穴についても同様である。
---	---

第30条 (安全性)²⁾

7を追加、以下を繰り上げ 7 選手はアテンプト中、ピアスなど危険と判断されるアクセサリーを着用してはならない。

第8章 失格、退場及び警告

第40条 (退 場)³⁾

(1) オブザーベーションの規定に反したとき	(1) アイソレーション の規定に反したとき
------------------------	-------------------------------

第9章 抗議

第42条 (抗議)²⁾

2 抗議は処分時又は競技の判定時や競技結果の公表時において、口頭により行うことができる。ただし文書を持って行うときは、主任審判員に提出する。口頭による抗議の裁定結果を含め、再度の講義は認めない。	2 抗議は処分時又は競技の判定時や競技結果の公表時において、 文書 により行うことができ、 文書 は主任審判員に提出する。抗議の裁定結果 に対して 、再度の講義は認めない。
---	---

6 正式発表した抗議は、正式発表をしてから30分以内に限る。それ以降の抗議については一切受け付けない。	6 正式発表した抗議は、正式発表をしてから5分以内に限る。それ以降の抗議については一切受け付けない。
7を追加 以下番号を繰り上げ	
7 競技結果に関する抗議について、受理された場合であっても全ての選手、チームの順位に変動が生じない場合、主任審判はこの抗議を却下することができる。	

第10章 成績

第44条 (用語の解釈)²⁾

(4) 競技エリア 競技に必要な一定の区域をいう。	4) 競技エリア クライミング・ウォール周辺の 競技に必要な一定の区域で、 役員及び競技をおこなうチームの選手及び監督以外の立ち入りが禁じられた範囲 をいう。
---------------------------	---

リード競技規則

第2章 競技場及び用具

第3条 (用具)¹⁾

4、7にある 「マイロン・ラピッド」を「クィック・リンク」に変更

第3章 競技の実施

第4条 (競技の構成)³⁾

5 競技の日程は、予選、決勝の2日間とする。ただし、種別によっては予選と決勝を同日に開催することができる。 決勝で1位に同着があった場合は、同日にスーパーファイナルを実施する。	5 競技の日程は、予選、決勝の2日間とする。ただし、種別によっては予選と決勝を同日に開催することができる。
---	---

第5条 (競技の方法)

4 確保²⁾

選手の確保は、ビレイヤーが行う。ビレイヤーは、コール・ゾーンにおいて選手とスタートの準備をする。	選手の確保は、ビレイヤーが行う。ビレイヤーは、コール・ゾーンにおいて選手とスタートの準備をし、 選手のハーネスの装着状態、ロープの結束状態の確認などをおこなう。
--	---

5 競技中²⁾

(3) 選手は、競技エリア内でアテンプト中に、他のチームの選手、監督、若しくは観客などと接触し又は競技に関する会話を交わし若しくは助言などを受けてはならない。	(3) 選手は、競技エリア内で 選手の競技に先立ってアイソレーションゾーンを退出した監督 、他のチームの選手、監督、若しくは観客などと接触し又は競技に関する会話を交わし若しくは助言などを受けてはならない。
---	---

<p>(4) 監督は、選手のアテンプト中にムーブに関する会話を選手としてはならない。</p>	<p>(4) 選手のアテンプト中に、同一チームの選手同士及び競技ゾーンまで選手に同行した監督は、指定された場所からの指示を行うことができる。</p>
--	---

同上¹⁾

<p>(8) 選手は、クイックドロワーのカラビナに順番にレジティメイト・ポジションでクリップしなければならない。この場合のレジティメイト・ポジションは、身体の全てがルートライン上にクイックドロワーの下側のカラビナを越えないか、又は手でクイックドロワーに触れることのできる範囲にあることをいう。このレジティメイト・ポジションにある限り、選手はクリップのためにクライムダウンすることができる。</p>	<p>(8) 選手は、クイックドロワーのカラビナに順番にレジティメイト・ポジションでクリップしなければならない。この場合のレジティメイト・ポジションは、以下のいずれかを満たす場合である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体の全てがルートライン上にクイックドロワーの下側のカラビナを越えていない。 2) 選手の身体の全てが次の未クリップのクイックドロワーを越えていても、選手が以下の状態にある： <ol style="list-style-type: none"> (a) 他の選手が、足でクイックドロワーを引き寄せることなくクリップ可能であることを示している；あるいは (b) その状態から未クリップのクイックドロワーにクリップ可能であるとチーフ・ルートセッターが判断した。 このレジティメイト・ポジションにある限り、選手はクリップのためにクライムダウンすることができる。 なお、このレジティメイト・ポジションとなるホールドを越えたいかなる動作も、成績として評価されない。
--	--

第4章 審査基準

第7条 (個人順位)¹⁾

<p>「3 選手の明らかに差異のあるパフォーマンスを、可能な限り区別するための各ホールドの保持とプラス (+) の区別の境界線の決定は、審判員の裁量による。」を削除、以下の番号を繰り下げ。</p>
--

ボルダリング競技規則

第3章 競技の実施

第3条 (競技の構成)

9 ボルダー¹⁾

<p>(4) 各ボルダーには、あらかじめ設定された場所からアテンプトを開始するスターティング・ポジションがなければならない。両手のスター</p>	<p>(4) 各ボルダーには、あらかじめ設定された場所からアテンプトを開始するスターティング・ポジションがなければならない。スターティン</p>
--	--

<p>ティング・ポジションは必ず設定しなければならない。それに加えて両足、又は片足のスターティング・ポジションを指定することができる。何もない、又は境界を明確に設定していないクライミング・ウォール面をスターティング・ポジションとして指定することはできない。</p>	<p>グ・ポジションは両手、両足の全てについて必ず設定しなければならない。何もない、又は境界を明確に設定していないクライミング・ウォール面をスターティング・ポジションとして指定することはできない。</p>
<p>(5) 両手・両足(又は片足)のスターティング・ポジションのホールドと最終ホールドは同色のカラーテープで、ボーナス・ポイントのホールドはそれ以外の色のカラーテープではっきりとマーキングされなければならない。使用するカラーテープの色は全ボルダーで統一されていなければならない。</p>	<p>(5) スターティング・ポジションのホールドと最終ホールドは同色のカラーテープで、ボーナス・ポイントのホールドはそれ以外の色のカラーテープではっきりとマーキングされなければならない。使用するカラーテープの色は全ボルダーで統一されていなければならない。</p>

第5条 (テクニカル・インシデント) ²⁾

<p>2 予選、決勝とも、テクニカル・インシデントが発生した場合、当該チームの残りの選手もテクニカル・インシデントが発生した時点で、行っていたアテンプトが終了した時点で競技を中断し、テクニカル・インシデントを被った選手と共に、休憩エリアに移動しなければならない。</p>	<p>2 予選では、テクニカル・インシデントが発生した場合、インシデントの発生したボルダーでのアテンプトは中断しなければならない。</p>
<p>3 予選でテクニカル・インシデントが当該の競技時間が終わるまでに修復された場合、当該チームはそのアテンプトを全チームの競技終了後に継続して行うことができる。この場合、主任審判員は、テクニカル・インシデントの当該チームが、そのアテンプトを継続するのに認められる競技時間を決定する。当該チームは、2分間を最低として、テクニカル・インシデント発生時の残り時間を保証される。</p>	<p>3 予選でテクニカル・インシデントが当該の競技時間が終わるまでに修復された場合、当該チームはそのアテンプトを当該の競技時間で継続するか、全チームの競技終了後に継続するかを選択することができる。当該の競技時間での継続を選択した場合、その時点で当該テクニカル・インシデントは完了し、以後はこれに関する一切の申し立てはできない。 当該チームが全チームの競技終了後に継続することを選択した場合、主任審判員は、テクニカル・インシデントの当該チームが、そのアテンプトを継続するのに認められる競技時間を決定する。当該チームは、2分間を最低として、テクニカル・インシデント発生時の残り時間を保証される。</p>
<p>5 決勝では、テクニカル・インシデントが発生した場合、修復完了時に、テクニカル・インシデントの当該チームはそのアテンプトを再開する。当該チームは、2分間を最低として、テクニ</p>	<p>5 決勝では、テクニカル・インシデントが発生した場合、当該チームの残りの選手もテクニカル・インシデントが発生した時点で行っていたアテンプトが終了した時点で競技を中断し、テ</p>

<p>カル・インシデント発生時の残り時間を保証される。</p>	<p>クニカル・インシデントを被った選手と共に、休憩エリアに移動しなければならない。</p> <p>修復完了時に、テクニカル・インシデントの当該チームはそのアテンプトを再開する。当該チームは、2分間を最低として、テクニカル・インシデント発生時の残り時間を保証される。</p>
---------------------------------	--